

2 (2) その他, 特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果, 世界的位置付けなど。(※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

本研究科では設立以来、生命倫理、環境倫理、情報倫理の講義を必修科目として設け、倫理観のある生命科学者の育成を図っている。この取組みは社会や学生の要請に応える全国的に先駆けた取組みで、卓越した教育活動として高く評価されている。

平成19年度より医学系研究科等とともにグローバルCOE「脳神経科学を社会に還流する教育研究拠点」が採択された。本プログラムを通じて、大学院生の国際会議での発表、海外留学の促進、RAの採用、医学研究科との単位互換制度等、国際性と新分野開拓能力を持つ人材育成のための教育体制が整い、大学院教育の質の向上ができた。さらに、平成20年度グローバルCOE採択に向けてシンポジウム開催等の取組みを行った。

さらに、COEなどで援助が受けられない後期課程の学生についても全ての学生が何らかの経済的支援を受けられるよう、研究科長裁量経費によりRAとして雇用できるよう支援体制を整え、安心して教育を受けられる体制を整えた。

特筆すべき研究活動

中静透教授が「森林の生態学的研究」に対して第1回「みどりの学術賞」を受賞した。この賞は、平成19年度に日本政府によって新設された学術賞で、植物、森林、自然保護などに関する研究、技術開発などで顕著な功績があった個人に対して内閣総理大臣が授与する賞である。また、福田光則教授が「低分子量Gタンパク質Rab27Aによる膜輸送制御の分子基盤の解明」により第5回日本分子生物学会三菱化学奨励賞を受賞した。

河田教授らは松島湾浦戸諸島のチョウ群集を用いて、生物多様性のパターンを説明するニッチ分配説を野外で実証した (PNASに掲載、河北新報等で紹介された)。高橋教授らは根の水分屈性に必須の遺伝子を発見した (PNASに掲載、朝日新聞等で紹介された)。片岡準教授らは黄色植物の青色光センサー (オートクロム) を世界で初めて発見した (PNASに掲載、河北新報等で紹介された)。水波準教授らはゴキブリの唾液分泌の条件付けを発見した (PLoS ONE に掲載、Times等に紹介された)。

平成19年度に発表された原著論文総数は179編で、平均IFは3.7であり、質の高い研究成果があがっている。

特筆すべき社会貢献活動等

東北地区のスーパーサイエンスハイスクール校の教育計画への指導助言等を行うとともに、県内のみならず栃木県、愛知県の県外の小中高へも定期的に出前授業を実施した。

また、東北大学100周年記念事業記念まつりで、ブースを設け、近隣住民へ本研究科の活動を紹介し、理解と協力を深めた。